



カトリック六甲教会 教会報

2015

10

No.526



安保法案反対の集会とパレードに参加して

長瀬



8月29日、兵庫県弁護士会主催の安保法案反対の集会とパレードが東遊園地噴水広場で行われました。6月21日に続く第2弾です。前回は9000人、今回は5000人の市民が集まりました。翌30日には大阪扇町公園で開催されました。25000人が集まったそうです。

私は今回の安保法案に反対ですから一人でも集会に行くと決めていましたが、神戸地区社活歴代

事務局2名が“参加します！”と表明してくださり、それならばと、幟1本購入、大阪教区シナピスからも借り、ピース9のメンバーにメールを送り、11名で参加しました。

十字架の幟の下に見たことのある六甲教会の方も集まって下さいました。

集会は何人かの団体代表のリレートークで始まりました。シールズのメッセージは若い鋭い感性で自分達の問題としてしっかり捉えており、主張する姿は頼もしく、私たちに希望を与えてくれました。「ベ平連の皆様からカンパをいただき、10名で今から国会前の集会に行つてまいります！」「私たちの分も頑張つてアピールしてきてね！」。会場には共に頑張ろうという一体感がみなぎっていました。

パレードは東遊園地から代々木ゼミナールまでと短い距離でしたが、フラワーロード3車線の真ん中を警察官に守られながら、「安保法案絶対反対！」「違憲法案絶対反対！」と声を揃えアピールしました。途中から列に加わる青年、陸橋から手を振つて応援してくれる人たち。同じ思いの人たちが結構いるんだと嬉しく思いました。

私は20年ほど前、ヨハネパウロ2世の「沈黙は黙認です」というメッセージを聞き、ドキッとしました。心で思っているだけでは届かない、思いを届けなければ行動しなくては伝わらないと気付き、以来この言葉を深く胸に刻み、自分がNOと思う事には勇気を出して行動で意志表示してきました。社活事務局時代、幾度も広島フィールドワークを行い、また加害の歴史も学びました。戦争は多くの人々の平穏な人生を狂わし、心に体に消えない傷を残します。私たちは多くの命を失い、荒廃した国土に呆然とし、命の尊さ、平和の大切さを学んだはずです。

私は後悔したくないのです。あの時みんなが頑張つて行動を起こしたから、日本は非暴力で国際貢献できているねと、子供や孫達と笑顔で話せるようにしたいのです。いのちが大切にされる社会を未来の子供たちにつなげたいのです。

皆さん、平和な安心して生活できる社会をつくるために自分の出来ることを考えましょう。諦めず関心を持って行動する勇気を持ちましょう。神様が共にいてくださることを信じて。



ナルドの花たより

～ 欧州の教会は難民受け入れを ～

【バチカン 9 月 8 日 CNS】戦争や貧困から逃れ流入する難民が急増する危機的状況にあつて、教皇フランシスコは欧州のあらゆる小教区や修道会共同体などに、希望と神のいつくしみのしるしとして、難民の家族一世帯を受け入れるよう求めた。

「福音は私たちに、最も小さくされている人や見捨てられている人たちに寄り添うよう呼び掛け、求めています。その人たちに具体的な希望を示すためには、ただ『頑張つて、耐え忍んで』と言うだけではいけません」と教皇は 9 月 6 日、「昼の祈り」のためにバチカンのサンピエトロ広場に集まった人々の前で訴えた。

「キリスト教的希望は、確かな目標に向かって進む粘り強さを備え、闘う側面をもっています」と教皇は指摘し、

自らの「兄弟であり、真の牧者である欧州の司教の皆さん」に、各教区で教皇の訴えに応じるよう促している。

「数十万人もの難民の方々が、戦争と飢えによる死の恐怖から逃れ」、生きる希望を求めている「悲劇を目の当たりにして」、教皇フランシスコは、「全欧州の各小教区や修道会共同体、観想修道院、巡礼地に対して、福音のしるしを具体的に示し、難民の一世帯を受け入れる」よう呼び掛けた。

神のいつくしみは一般の人々による働きを通して示される、と教皇は語り、キリストの教え、「わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」を思い起こすよう人々に促した。

教皇は、こうした行動は 12 月 8 日から始まる「いつくしみの特別聖年」に備える具体的な方法にもなると指摘した。

バチカン紙「オッセルバトーレ・ロマーノ」によると、バチカンの聖ペトロ大聖堂と聖アンナ小教区が近く、最初の難民の家族二世帯を受け入れ、世帯主の雇用先も探す予定だという。

September 11, 2015 カトリック新聞より



9 月 10 日、ギリシャからマケドニア国境を越えるために、子どもを抱え、泣きながら悪路を渡るシリア難民の女性 (CNS)

～教皇フランシスコ ツイートより～

◆ 数々の不正義や苦しみが存在しても、主は必ず勝利します。

In spite of injustices and sufferings, the Lord's victory is certain. (2015/9/17)

◆ 神は謙遜な人を愛します。謙遜に生きていれば、神は私たちの小さな努力を、大いなるわざへと形作ってくださいます。

God loves the lowly. When we live humbly, he takes our small efforts and creates great things. (2015/9/14)

2015 年度第 4 回地区役員会議事録 (2015 年 9 月 6 日)

出席者：アルフレド主任司祭、堤 評議会議長、各地区役員

- 1 納涼の夕べ (8 月 15 日) について
- 2 チャリティーバザー (11 月 8 日) について
- 3 教会大掃除：11 月 14 日 (土) 9:00～
- 4 その他

次回地区役員会 11 月 14 日 (土) 教会大掃除後 10:00～

<行事報告>

「朗読奉仕者勉強会」

8 月 23 日 (日) 朗読奉仕者の勉強会を行いました。今回は、勉強会において朗読する箇所を事前にお知らせし、その箇所を奉仕者の方々に朗読していただきました。予め指定した朗読箇所は、聖週間の典礼の「ヨハネによる主キリストの受難」の前半部分でした。勉強会は、実際に聖堂の朗読台に立って朗読し、お互いに聴きあって、後で気付いたことを話す形で進めました。アルフレド神父様をはじめ奉仕者の皆さんを前に朗読台に立つと、勉強会とはいえ肩に力が入って大変な緊張だったと思います。朗読箇所を予め何度もよく読み込んで理解すること、自分の口の位置にマイクが来るように各人が調整を心がけることなどをあらためて確認した勉強会でした。(典礼部 橋)



バイブルハウス 聖書リレー朗読会 (9月7~17日)

バイブルハウスでの聖書通読に参加して



9月14日に六甲教会の聖書通読のお仲間9人でバイブルハウスの聖書リレー朗読会に参加しました。この数年は声を出して聖書を読むことにも慣れ、最近少し余裕もでき、読みながら主の御心を私なりに感じられるようになってきました。

バイブルハウスでの朗読会では、あらゆる宗派のキリスト者が外国語をも含めて読み継ぎ、同じ教えを共有している喜びを大いに味わった時間でした。そして、国籍を問わず多くの方々に参加できるようになればと将来に思いを馳せました。 (K.O.)

祈りと音楽の集い

9月13日(日)午後2時から恒例の「祈りと音楽の集い」が主聖堂で行われました。今回はオルガンと歌によるグレゴリオ聖歌やモーツァルトの曲、オルガン、ヴァイオリン、ソプラノによるJ.Sバハのカンタータ、女性アンサンブルのJ.ラターの美しい曲など、100人近くの聴衆は日曜日の午後の美しい歌声や演奏に魅了されるかのように、安らぎのひと時を過ごされました。

特に教会外部の方の参加が多かったように思います。

次回は11月1日(日)に行われますので、是非、多くの方のご来場をお待ちしています。



《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

📖 社会活動部

10月2日(金) 連絡会 10:00 ミサ後

📖 三日月会

10月19日(月) ミサと懇親会 14:00

📖 小教区評議会

10月11日(日) 評議会 12:30

📖 施設管理部

10月25日(日) 施設管理部部会 13:00

📖 典礼部

10月17日(土) 典礼部会 10:00

📖 広報部

10月31日(土) 教会報印刷 10:00

📖 教会学校

10月17日~18日(土/日) 練成会



《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★ 社会活動部より ★

- 10月 7日 (水) 10時 手芸の集い (第1、第2会議室) どなたでも参加ご自由です。
10月18日 (日) 10時 ミサ後 ふれあい広場 (イグナチオホール)
10月26日 (月) 9時半 ともしび会ケーキ作り (イグナチオホールお台所)
10月31日 (土) 10時 炊き出し (イグナチオホールお台所)
小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話し相手や配食だけでもOK!
車に大鍋を運搬する際、力仕事を要します。男性の方でお手伝いの
きるかたがいらっしゃると助かります。

◆ ネパール復興支援 義援金のお知らせ ◆

皆様から集めましたネパール復興支援のための義援金 662,083円は全額
カリタスジャパンに送金されました。

ボランティアグループの紹介 その6 (社会活動部)



ともしび会

ともしび会は、養護施設の子供達に、教会のお台所をお借りして地域の方達とも協力し、毎月手作りのケーキをつくり、届けているグループです。灘区の信愛学園、東灘区の愛神愛隣舎に、ケーキをプレゼントしています。

子供達の笑顔に支えられて、スタッフ一同楽しくケ-キ作りをしています。ケ-キ作りがお好きな方 どうぞ一度 いらして下さい。

木暮

★ 典礼部より ★

聖歌隊だより



芸術の秋。音楽の秋。聖歌隊では日ごろの聖歌練習に加えて、クリスマスの練習を始めています。聖歌隊は毎年12月23日に行われる「クリスマス音楽の集い」の中で、クリスマスキャロルを披露します。1年のうち、特別なこの時期にしか歌えない曲を、皆様も一緒に歌いませんか?

合唱未経験の方、楽譜の読めない方でも大丈夫、発声の指導もいたします。一緒に声を出して聖歌を歌ってみたい方、新しく聖歌を覚えたい方、老若男女問わず大募集中です。

下記の練習日に直接お越しいただくか、聖歌隊隊員までお声掛けください。

また、結婚式、ご葬儀関係の奉仕だけのメンバーも常時募集しております。式で使用する聖歌は、耳なじみのある簡単な曲ばかりです。聖歌隊員に登録していただければ、教会連絡網と別に聖歌隊連絡で、冠婚葬祭のお知らせをします。空いている時間、可能な時間だけで結構です。ご一緒に奉仕しませんか? 聖歌隊員一同心からお待ちしております。

10月の練習

ミサ前練習 4日、11日、18日、25日 9:00～9:30 その日のミサで歌う曲の予習

定期練習 3日(土) 10時～12時 主聖堂あるいはイグナチオホール

18日(日) 11時15分～12時半 主聖堂

聖歌隊代表 清水

<祈りと音楽の集い>

～秋の祈り、永遠の日曜日にちなんで～

感じる

11月1日(日) 午後2時よりおこないます。

今回はドイツで活躍しているオルガニストとソプラノのお二人の演奏をお届けします。

オルガニスト、フローリアン・ヴィルケス氏はベルリン聖ヘドヴィヒ大聖堂オルガニスト、
また、ソプラノは大阪出身の安保恵美さんです。

11月1日は死者の月の始まりの日です。

深まる秋の午後、ゆっくりと音楽に身を委ねるひと時をお過ごしください。



★墓地つこだより★

11月1日は秋の教会墓参の日です。10時のミサ後長峰霊園教会墓地、共同墓地で納骨式を行います。その後、神父様による個人墓地の祝福が行われます。

墓地へ行かれる方は、ミサ後、墓地へ向かう車に便乗して下さい。教会関係者に声をかけていただければ車の手配をいたします。



なお、共同墓地に納骨を希望される方は所定の手続きをして下さい。事務所に墓地使用申込書、納骨の容器などを準備しております。

共同墓地の敷地内ではたくさんの種類のハーブが咲いています。是非自然の中で先祖の方々への思いをお祈りください。

(墓地委員会 SF)

最近の共同墓地(ハーブが咲き乱れています。

ホームページでカラー写真をご覧いただけます。)



ペニユエラ神父様を偲んで

すらりとした長身に高い鼻。陽気で大きな声。かくし芸はフラメンコ。そんな神父様にまわりつくようにして、私達世代は育ちました。

ペニユエラ神父様が、六甲で活躍されたのは1963年から1986年までの23年間。当時は今の聖堂からイグナチオホールの辺りに、司祭館がありました。旧聖堂の庭から、石の階段を上ること20段ほど。そこには洋館があり、大きな扉を恐る恐るソーッと開くと、不思議な洋風の匂いがしたものです。奥の階段から、颯爽と出てこられる神父様は、まだ小さな私達を抱っこして歓迎してくださいました。教会にはたくさんの神父様がおられたのですが、私達子供にとって、神父様＝ペニユエラ神父様。いつも温かい笑顔で私達と一緒に遊んだり、時にはこっそりおやつを分けてくださったり、また初聖体、七五三など成長の折々に祝別を授けてくださいました。

また、ペニユエラ神父様は婦人会でも人気者でした。気さくで行動的。頼りになる神父様のことを、母達は「ペニユさん」と愛称で呼んでいました。今思えば、母親たちと同世代だった神父様は、私達子供たちのことを、わが子同然に見守り、育て、ヨゼフ様的な存在だったのかも知れません。

ペニユエラ神父様のもう一つの顔は、当時今のザビエルハウス辺りに建っていた、六甲会館という学生寮の寮長さんでした。当時、神戸外大でスペイン語の教鞭をとっておられたこともあり、寮生は神大、外大の学生さん。その寮生たちのお世話をされ、社会に送り出されました。バンカラな学生さん、スペイン人神父とドイツ風洋館。何とも不思議な神戸ならではの組み合わせです。寮長時代に神父様が地方から出てきた学生さんから習った『母さんの歌』は神父様の十八番となり、晩年までロヨラハウスでよく口ずさんでおられました。

神父様は1986年に六甲から東京に移動となりました。数年の司牧の後、8年ほど前からはロヨラハウスで、療養されていました。石神井まで行けば、いつでも神父様に会えるという安心感がありました。最後にお会いしたのはちょうど2年前。ベッドサイドではありましたが、『母さんの歌』と一緒に歌い、握手をして別れました。

しかし先日お会いできたのはイグナチオ教会でのご葬儀。神父様のお顔に笑顔はなく、「マリちゃん」と呼んでくださる、あの弾けるような声も聞こえません。実父を見送って10年、私の教会での父、ペニユエラ神父様とのお別れでした。

今、神父様の経歴を改めて見ると、60年余りを日本で働かれています。私とほとんど同じ時代を、遠い異国の土地、日本で過ごされたのですね。本当に長い間、日本のため、六甲の私達のために、たくさんのお働きをありがとうございました。

これからは天国から私達のヨゼフ様として見守ってください。

♪喜びたたえよ、わが救い主は。約束のごとく、よみがえられたり。

アレルヤ、アレルヤ、アレルヤ！

(マリア・清水)



みんなの広場

ロザリオ

10月と言えば二人の「テレジア」？ それよりも、10月は「ロザリオ」。

記念日の起源は現代には異様なようだが、今もどこかで同じような切実な祈りになっているのではないか。

嘗て通勤の往復に時折ロザリオを爪繰っていた。かなり上の空ではあったが。あの坂道は僕の脚には1環終えるのに丁度よかった。

ロザリオには代用品がある。11個の突起が付いた指輪、アメリカからもたらされたという。これを使いながらハイウエーをぶっ飛ばすという。まさかとは思いが嘗てラーデマン神父様から聞いた話。以来ずっとこの指輪を財布の中に携えている。両手をふさがれて歩きながらは使えなくなったが、医者待合室では重宝だ。そんなものがなくても神様は両手で10本の指をくださった。これなら買い物をさげている、つり革にぶら下がっていても使える。あるものはせいぜい使おう。

10月7日は「ロザリオの聖母」の記念日。主日ではないから読むことはないかも知れないが「毎日のミサ」には固有文がある。「毎日のミサ」は黙想には及ばなくても毎日その日の部分を読むとよいだろう。それだけなら少々の時間でもできる。物々しいことを言って結局しないよりもお手軽にできることをする方がよいのでは。

ベトナムの迫害で長らく幽閉されていたトゥアン枢機卿の獄中記にこんなことが書いてあった。「肉体的、精神的な苦痛が重くのしかかり、祈ることもできないとき、わたしはただ『アヴェ・マリア』を繰り返すだけでした。一日に何度繰り返したかわかりません。」(「5つのパンと2ひきの魚」女子パウロ会2007年)

M a t e r D e i , e t M a t e r m e a ! (終)

(ヨハネ 三好)

最初に花を愛した人

いまから5万年ほど前、イラク北部の標高700mほどの川沿いの地で、とある人の葬儀が行われました。この式には、動物の骨や牙、色のついた土などの他、美しい花々が用いられていたそうです。この葬儀の参列者のことを、発掘した考古学者が、「最初に花を愛した人々」と命名しました。

また、農耕という概念がない2万年ほど前の絵画や彫像、実用性よりも芸術性を重視した矢じり、首飾りなどの装飾品などが世界中で発掘されています。フランスのラスコーのものは有名で、動物の足の運びを正確に当時の人々が眼で捉えていたことも知られています。

飢えと寒さの中、おそらくまともな文明もなかった中、外敵や天災に脅える中、それでもわたしたちの先人は、こうやってお互いを支え合い助け合い敬い合って生きてきました。健康で文化的に生きてきました。花を愛して生きてきました。(MAYA 702)

◆◆ お知らせ ◆◆

10月12日(月) 教会受付お休み(体育の日)

11月1日(日) 秋の墓参 10時ミサ後



| | |
|---|--|
| 教会報11月号の発行は11月1日(日)です。 原稿は、10月18日(日)正午までに事務 受付へご提出ください。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp | カトリック六甲教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電話 / FAX 078-851-2846 / 078-851-9023 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編集 広報部 |
|---|--|